令和6年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業) 成果報告書

団体名	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団	
施設名	北九州市立響ホール	
内定額	17,041 (千F	円)

1. 基礎データ

(1) 関始口粉, 車業大粉, 贷給口粉

	項	目	令和5年度	令和6年度
日数			234	311
主催事業			21	22
公演事業	Ę		7	7
	(内、本助成対象事業本数)		7	7
人材養原	艾事業		3	3
	(内、本助成対象事業本数)		3	3
普及啓	芒 事業	5	7	
	(内、本助成対象事業本数)		5	7
その他	内容: 共催•受託事業		6	5
ホールごと	の貸館日数		153	177
;	ホール名:大ホール	座席数: 720	153	177
;	ホール名:記入してください	座席数: 記入してください		
;	ホール名:記入してください	座席数: 記入してください		
;	ホール名:記入してください	座席数: 記入してください		
;	ホール名:記入してください	座席数: 記入してください		
	医催事業 本事	日数 正催事業 公演事業 (内、本助成対象事業本数) 人材養成事業 (内、本助成対象事業本数) 普及啓発事業 (内、本助成対象事業本数) その他 内容: 共催・受託事業 マールごとの貸館日数 ホール名: 記入してください ホール名: 記入してください ホール名: 記入してください ホール名: 記入してください	田数 正催事業 公演事業 (内、本助成対象事業本数) 人材養成事業 (内、本助成対象事業本数) 普及啓発事業 (内、本助成対象事業本数) その他 内容: 共催・受託事業 スールごとの貸館日数 ホール名: 大ホール 座席数: 720 ホール名: 記入してください 座席数: 記入してください ホール名: 記入してください 座席数: 記入してください ホール名: 記入してください 座席数: 記入してください	日数 234 正催事業 21 公演事業 7 (内、本助成対象事業本数) 7 人材養成事業 3 (内、本助成対象事業本数) 3 普及啓発事業 5 (内、本助成対象事業本数) 5 その他 内容: 共催・受託事業 6 スールごとの貸館日数 153 ホール名: 記入してください 座席数: 記入してください

^{※1} 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

	項 目	令和5年度	令和6年度
	主催事業入場者・参加者数	13,993	12,885
施	公演事業	9,907	8,464
設利	人材養成事業	356	350
用者	普及啓発事業	3,730	4,071
数();	その他 内容: 記入してください	-	-
<u>*</u>	貸館事業入場者·参加者数	14,081	15,409
	その他 内容: 共催・受託事業	2,376	2,600
	計	30,450	30,894
施設	との利用率(%)	52.9%	61.0%

^{※2} 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

大學 (4)		事業	公演	入場者・	入場者・			事	業本数内	訳		
	事業種別	本数	回数	参加者数	参加者率	演劇	音楽	舞踊	伝統 芸能	演芸	総合 (※4)	その他
	主催公演(※1)	7	17	9,907	85.3%		7					
令 和 5	共催・ 提携公演(※2)	4	12	2,376	-		4					
年度	貸館公演(※3)	36	39	14,081	-		34					2
度	計	47	68	26,364								
	主催公演(※1)	7	15	8,464	84.2%		7					
令 和 6	共催・ 提携公演(※2)	5	10	2,600	-		5					
年度	貸館公演(※3)	41	44	15,409	_		40					1
	計	53	69	26,473								

- ※1 名義主催は除きます。※2 名義共催を含みます。※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

- (1) 各公演事業における評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)
- ・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	事業名	入場	者数	入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
⁄\$-01	響ホール企画 2024リサイ	目標値	1,960	69.6%	ែ観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」 の割合98%	「プログラムを心ゆくまで楽しめた。響ホールの素晴らしい音響も 演奏の深みを引き出していた」(アンケートより)等の意見など、		
Z 01	タルシリーズ(4公演)	実績値	2,087	84.6%	今後の来場意向	90%以上	98%	こちらの企画意図を十分に達成できた。想定以上の来場者に対する駐車場の運営に課題がでた。		
√ \-02	響ホール創造事業 0才	目標値	1,080	90.0%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」 の割合100%	「子供たちを飽きさせない構成で大人も満足した。」「赤ちゃんと クラシックコンサートを一緒に聴けて楽しかった。」(アンケートよ		
Z 02	からの音楽会	実績 値	1,127	93.3%	新規来場者の割合	30%以上	40%	り)等の意見が多く、家族での鑑賞機会を提供し、音楽との出会いの場をつくることができた。		
	響ホール創造事業 0才からの親子で楽しむクラ	目標値	1,060	88.3%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」 の割合93%	公演後アンケートの結果、概ね「満足」したといった結果であったが、楽器説明などが未就学児には難しく、集中力が続かなかっ		
	シックコンサート	実績 値	1,163	91.0%	新規来場者の割合	30%以上	39%	たなどの意見もあり、より幅広い層に楽しんでいただける工夫が 必要であった。		
	2024北九州国際音楽祭	目標値	2,823	84.1%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」 の割合99%	世界最高峰の演奏を鑑賞できたことへの感動の声が多く寄せられた。また、地元でその演奏が聴けたことへの感謝の声も多く、 シビックプライド醸成の一助となった。また、市外からの来場も他		
	:-04世界のアーティスト招聘公 演事業(3公演)	実績値	2,697	80.6%	北九州市外からの来場者の割合	35%以上	30%~39%	公演に比べ多く、3公演で211名となり、遠方では東京都、千葉県からの来場もみられ、響ホールの認知度アップと本市のにぎれいづくりへの寄与も一定の成果があった。		
	2024北九州国際音楽祭	目標値	293	91.6%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」 の割合99%	リラックスして聴けた、非日常を楽しめた、間近で演奏を聴けたことへの満足感などの声が多かったが、各施設での音響、照明の		
	地域の文化拠点を活用した創造公演事業(2公演)	実績値	303	98.3%	ホールとは異なる空間での演奏会に関する感想	企画意図と合致した感想の記述	26件	事前準備に苦労した。当日午前中しか仕込み時間がなく完全にクリアできなかった事柄もあり、さらなる工夫が必要。		
		目標値	454	75.0%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」 の割合98%	響ホールでは上演機会の少ない邦楽ジャンルであったが、クラシック音楽と共通する「継承」をキーワードに企画し、そのことが		
公-06創造	2024北九州国際音楽祭 創造公演事業『日本の伝 統芸能』	実績値	407	64.3%	邦楽公演の鑑賞の有 無と本公演に関する 感想	企画意図と合致した感想 の記述	55件	双方にとって実りある結果をもたらしたように思う。また、能と日本舞踊を比較しながら解説、体験をし、その後に鑑賞をしたことで、「伝統芸能」の魅力を感じてもらえる公演になった。経験の少ないスタッフが一から伝統芸能を学び、創り上げたことで、日頃、携わっているクラシック音楽公演を企画する際に「継承」という目線が加わったことも大きな成果と捉えている。ただし、券売については厳しい想定を持ち、地道な広報宣伝を展開したものの目標には届かなかった。		
	2024北九州国際音楽祭	目標値	501	71.5%	観客の満足度	「大変満足」「満足」の割合 95%以上	「大変満足」「満足」 の割合95%	令和6年度で11回目の公演となった。長年続いている企画で、固定ファンもおり、アンケートでは、来年もまた楽しみにしているとの声も多くいただく。		
- •	創造公演事業『オリジナル室内オーケストラの編成』	実績値	618	88.1%		企画意図と合致した感想の記述	48件	演奏者には、有料公演だけでなく、教育プログラムでも貢献をいただいている。公演や教育プログラムを通じて、北九州国際音楽祭、響ホール、北九州市への愛着心が醸成され、オーディエンス、演奏者、企画側が一致した方向に進めているように感じている。		

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点

- (企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 (制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 (発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。
- (レジデントカンパニー・アーティスト) 当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。
- ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・全公演の平均満足度 ・公-01及び公04~07の市外来場者数 ・公-7 オリジナルオーケストラ公演に対する感想(満足度)、出演アーティストに対する愛着や評価など、来場者の反応。 ・年間のオリジナル公演実施回数	回した割合 平均95%以上 ・該当事業の市外来場者 平均30%以上 ・・来場者アンケートで企画意図と合致した	・来場者アンケートで「大変満足」「満足」と回答した割合 平均97% ・該当事業の市外来場者 平均34% ・来場者アンケートで企画意図と合致した感想48件 ・8回実施	・「国内外で活躍する一流奏者のコンサートを実施し、響ホールの優れた音響を活かした多彩な音楽芸術を提供する」を事業の企画意図としており、来場したお客様からば「音の良いホールが近くにあり、チケットも入手しやすく、定期的に良いコンサートを聴けて、毎回嬉しく思っています。」「一音一音とても素晴らしい演奏でした。このアーティストは他の会場でも聴いたことはありますが、さすが響ホールは演奏を活かすコンサートホールだと実感しました。」など、アーティストはもちろん、ホールの音響に関する好意的な意見も多くみられた。 ・今和6年度は、これまでの来場者アンケートでリクエストの多かったアーティストで、ピアノやブラスバンドなどの一流演奏者により、幅広いジャンルのコンサートを実現できたことから、注目度が高まった。北九州市域外からの来場も目標値を超え、地域のにぎわい創出につなげることができた。また、北九州市内の歴史的建築や文化施設との協働、「継承」を共通テーマとする洋楽と邦楽の対比など、地域色あるユニークな企画内容によって、聴く機会が比較的限られるジャンルの提示や新たな客層へのアブローチ、響ホールのプレゼンス向上が実現できた。		
・人-01、人-02の応募者数 ・人-01参加者の理解度、今後の研修参加の意名・人-3中学校合唱講習会の参加教員の反応 人材養成立事業	・80名以上(総定員数80名) 次・研修アンケートで「よく理解できた/理解できた」と回答した割合90%以上 ・アンケートで「生徒への指導力の向上に役だった」と回答した割合 90%以上	・89名(人-01 49名、人-02 40名) ・研修アンケートで「よく理解できた/理解できた」 と回答した割合88% ・アンケートで「生徒への指導力の向上に役だった」と回答した割合 100%	・響ホールアーツスタッフ養成講座(人-01,02)では、地域の文化拠点である公共ホールとして、響ホールのスタッフだけでなく周辺ホールやその他市民に学びの場を提供し、地域の音楽文化を担う人材を育成する目的で2講座を開催した。 人-01ホスピタリティ・カスタマーサポート講座では、「様々な障がいをお持ちの方の生の声を伺えて貴重な機会となった。職場に持ち帰り共有、実践、模索したいと思う。」「移動サポートなど実際に実習できる場が少ないので、貴重な経験ができた。車イスの種類により操作が違うことなど、多くの気づきがあった。」など、概ね好評の声をいただいた。また、「身体」の障がいのみだけでなく、「認知症」など他のサポート研修についての要望もあり、今後の検討課題としたい。 ・「中学校合唱講習会」に参加した教員からは「生徒へのアプローチなど大変勉強になった。」「学校に戻ってまた練習して、修正していきたい。コンクールに向けて頑張りたい。」などの声があった。また、参加した生徒からは、「楽しく、集中できた。」「他の学校の合唱を聴講して、客観的に学ぶことができた。」など、教員・生徒両方から大変好評であった。		
 ・普-1 ワンコインコンサートの入場率、満足度 ・普-1ワンコインコンサートの来場者の反応 ・普-2地域訪問コンサートの来場者の反応 ・アウトリーチ来場者の満足度 	てみたい」と回答した割合90%以上 ・来場者アンケートで「クラシック音楽に興味・関心を持った」と回答した割合90%以上	を持った」と回答した割合平均99%以上	普及啓発事業は「幅広い鑑賞機会の提供」「新規観客とリピーターの獲得」「本市出身(在住)アーティストを起用し、活動を応援する」を目的に企画・実施した。 ・普-01「ワンコインコンサート」の入場者からは「リーズナブルかつ内容のボリュームもあり、非常に良いコンサートだった。次回もまた来たい。」「昨日、市民センターで演奏を聴き、響ホールでも聴きたいと思いきた。ビアノは市民センターのアップライトより、ホールのスタインウェイの方が聴きごたえがあった。」「地元の演奏家の共演機会は中々ないので、すばらしかった」等の声をいただいた。 ・普-02「地域訪問コンサート」では、「クラシック音楽にはあまり馴染みはないが、曲の説明があり楽しめた」「初めての体験だったが、新鮮だった」「久しぶりにクラシック音楽を聴いて感動した。またホールに行って聴いてみたい」といった声が多く寄せられた。 目標値を全て達成できており、目的に沿った事業の実施を達成できたと考える。その一方で、「チケット料金が高くなっても、もう少し公演時間を長くしてほしい」といった声も多くみられた。		

(2)「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・公-04,05,06については、北九州国際音楽祭として実施した。

地元経済界、音楽団体、演奏家、教育団体、北九州市役所、特別協力企業により、組織委員会及び企画検討部会を編成。年間のべ5回程度の会議を行い、地元ニーズや開催内容等へのご意見とともに、音楽祭の運営にご理解・協力をいただいており、地域をあげた

・公-04の「エフゲニー・キーシン」コンサートでは、開場前に、チケット購入者で事前応募した方の中から当選した50名を対象に、ここでしか聴けない話を含んだ事前レクチャーを行った。

・公一05では、北九州市内の歴史的建造物及びプラネタリウムを会場にコンサートを実施。ホールでは演出できない特別な環境を生かした企画内容を考え、演奏者に企画意図をご理解いただくことからスタートした。
「ジー05では、北九州市内の歴史的建造物及びプラネタリウムを会場にコンサートを実施。ホールでは演出できない特別な環境を生かした企画内容を考え、演奏者に企画意図をご理解いただくことからスタートした。
「ブラネタリウムでのコンサートでは、星を投影するタイミングや全体のパランスに注意を払い、「音楽」が先行する演出を心がけた。
サロンコンサートでは、演奏時間は、会場の瀟洒な雰囲気を生かして非日常を演出した。お帰りの際には、演奏者と交流できる時間を設け、100名定員のサロンコンサートならではの一体感のある親密な時間を過ごしていただくことができた。
・公一06では、北九州市出身の演者を中心に、能と長唄の実演者ともに、企画内容を検討した。北九州市では、本格的な能、長唄の公演実施の機会が少ないことから、事前講座を4回に亘って開催し、様々な角度から楽しみ方を提案した。
各講座実施後には、本公演チケットをお買い求めいただく参加者が多く、券売促進の一助となった。

また、本公演においても休憩を40分設定し、その間、ホワイエで、長唄の鼓のデモンストレーション演奏、鼓、能面の体験、能装束展示をゆっくり楽しんでいただいた。

また、本公演においても状態を40万改定し、その間、ホッイエで、長頃の鼓のアモンストレーション演奏、鼓、能画の体験、能表来展示を得ってり楽しんでいただけた。 若年層への広報宣伝としてのアプローチ及び参画企画として、書道パフォーマンス大会で優秀な成績を修めている「福岡県立八幡中央高校書道コース」に、本公演企画趣旨から連想する言葉を大きな作品にしていただいた。 作品はホワイエの正面に掲示し、公演内でも紹介した。八幡中央高校は響ホールの近隣に位置しており、協力を得られたことは地域連携の成果となった。 ・公-07では、開演前に、ステージ上で各セクションごとにアンサンブル曲を披露したり、篠崎史紀氏による若手演奏家のインタビューを行ったりするなど、演奏者の人柄を知る機会を設けた。 この取組みは、来場者の愛着心醸成の一助となっている。 ・普-03では、公演日はお盆頃に設定し、家族で参加しやすくした。また、鑑賞だけではなく、楽器体験コーナーや舞台上ではスクリーンを使用するなど、聴く・見る・体験するを1つの公演に詰め込んだ内容とし、子供たちの印象に残るものを目指した。

- ・音一08では、水質白はお無頃に設定し、水(を参加して)、たい。 これ、 これではない、米部体級コーケー で発力工 にはスケッーンを使用するなど、味べらいを繋りると 「フがな質に高めためた内谷とし、子供たらの印象に残るものを自由した。
 ・音-04の「日本の伝統芸能講座」は、父-06と連動する講座として実施。講座で学んだことが、すぐに生かせる環境を整えた。演者と相談しながら初心者が来場することを想定して内容を創った。
 また、「楽しみかた聴きどころ講座」は、初心者向けとして「響ホールへ行こう!」、経験者向けとして「北九州国際音楽祭へ行こう!」と対象を分けて実施。初心者向け講座では、クラシック音楽はどうして「クラシック」というのかや、響ホールの特性及び音楽ホールの楽しみ方などを知っていただける内容とした。クラシック音楽入門編とするとともに、響ホールの魅力を知っていただく機会となった。
 ・「中学校合唱講習会」の企画目的に、「NHK合唱コンクール」「合唱連盟主催コンクール」への出場を目指すとあり、「令和6年度NHK全国学校音楽コンクール 九州・沖縄ブロックコンクール」では講習会参加校の北九州市立永犬丸中学校が「銀賞」を受賞した。また、「第79回九州合唱コンクール」においては、講習会参加校の内、「校が「銀賞」を受賞した。さらに当講習会に唯一小学校で参加していた北九州市立日明小学校が小学生部門において「金賞」を受賞し、全国大会に出場した。
 ままま、「第79回入州合唱コンクール」においては、講習会参加校の内、「校が「銅賞」を受賞した。さらに当講習会に唯一小学校で参加していた北九州市立日明小学校が小学生部門において「金賞」を受賞し、全国大会に出場した。 本事業の実施により、北九州市の合唱技術の向上に着実に結びついてきている。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点

- (国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。
- (国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。
- (新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。
- ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

・北九州国際音楽祭事業における海外の一流アーティストの招聘数 ・招聘件数 3件 ・招聘件数 3件 ・招聘件数 3件 ・連携対象機関 3件 ・連携対象機関 3件 ・連携対象機関 3件 ・連携対象機関 3件 ・連携対象機関 3件 ・連携対象機関 3件 ・通携対象機関 3件 ・連携対象機関 3件 ・通携対象機関 3件 ・通携対象機関 3件 ・通標対象機関 3件 ・通標対象機関 3件 ・通標対象機関 3件 ・通標対象機関 3件 ・通信のとおり3件の海外一流のアーティストを招聘することができた。 ・JICA、北九州国際交流協会、北九州市役所国際部へアプローチした。それぞれが持つ既存の連絡ツールなどで、特に、日本の伝統芸能公演について周知していただいた。 ・音・4の「日本の伝統芸能調座」第2回目で、外国人講師を招いたが、アンケートの中には、その記述がみられなかった。講座内容をたくさんの要素を語め込み過ぎたことで、印象に残らなかったと考えられる。	
・近隣の国際機関との連携件数 ・連携対象機関 3件 ・連携対象機関 3件 ・連携対象機関 3件 ・連携対象機関 3件 ・普-4②外国人講師を招いた講座の 参加者の反応 ・企画意図(世界から見た日本の伝 統芸能の魅力を知る)を理解した感 ・企画意図(世界から見た日本の伝 統芸能の魅力を知る)を理解した感	
参加者の反応 統芸能の魅力を知る)を理解した感 統芸能の魅力を知る)を理解した感 ケートの中には、その記述がみられなかった。講座内容をたくさんの要素を	

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

- ・公-4「エフゲニー・キーシン」の来場者アンケートで、
- 「藤田真央さんの本でエフゲニー・キーシンさんを知り、北九州に来られるならぜひ聴いてみたいと、小学生の息子と来ました。
- 曲ごとに音が変わり、生き生きとどの曲も魅力的でした。特にプロコフィエフは余り聴いたことがなかったのですが、モダンさというのを感じました。 キーシンさんの故郷ロシアは今戦争中です。今日の会場、ソレイユホールのある大手町は戦時中は兵器工場があったので原爆の投下目標になっていた場所と聞いています。
- 戦後79年、私たちは音楽ホールでキーシンさんの素晴らしい演奏を聴くことができていますが、世界では戦争は終わりが見えていません。
- ピアノを通じて、他の国のことを知る機会にもなりました。音楽は世界をつなぐ大切な言葉だと感じました。」(40代女性)
- という、人類共通の財産である「クラッシック音楽」を通して、本公演をきっかけに世界情勢に思いを馳せた感想をいただいたことで、 国際交流や国際理解に芸術文化が大きな役割を果たしていることを気付かされるとともに、事業を実施する意義と、公共ホールとしての責務を強く実感する機会となった。
- ・2024北九州国際音楽祭では、スタッフ内で検討し、「美を継ぐ 心を継ぐ」をキャッチフレーズにした。ラインナップに「日本の伝統芸能」を組んだことに寄るところが大きく、西洋と東洋の文化の
- | 真髄の継承が共通であることを提示したものである。 | この認識をスタッフ間で共有できたことで、2024北九州国際音楽祭の「いにしえから継ぐ、美と心。その真(まこと)の花は、時空を超えても、今の私たちを捉えて話さない。これからもずっと 一。」というメッセージを強く打ち出すことができたと考えている。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点

- (文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。
- (地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。
- (児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。
- ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※
- 自由設定の観点(任意)
- ※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

・ 評価補助シートで設定した評価指揮と日標(値) 及び その達成度に言及しながら自己評価を記入してください

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・貸館利用者の満足度	・利用者アンケートの満足度97%以上・5件(令和5年度実績5件)・5団体	・利用者アンケートの満足度98% ・8件(令和5年度実績5件) 西日本工業倶楽部、北九州ソレイユホール、 西日本工業倶楽部小倉キャンパス スペースLABO、木屋瀬宿記念館、 八幡東区生涯学習センター尾倉分館能楽堂、 J:COM北九州芸術劇場、門司港駅前	・貸館については「音響が良い」「料金が安い」「スタッフの対応が良い」など利用者の満足度は概ね高い。一方で、「駐車場・事務室・練習室」の場所の分かりにくさに関するご意見もあり、課題の解消に向けた、案内看板の改善などについて検討する余地がある。 ・下記団体と連携し、地域のニーズの把握、広報宣伝協力、北九州国際音楽祭運営へ参画をいただいた。連携により、各分野の専門性による新しい視点やアイディア、広報面での広い範囲へのアプローチが可能になった。例えば、北九州商工会議所の会報誌には、当ホール公演の案内を掲載いただき、北九州市年長者研修大学校には、音楽コースの中で当ホールに来て学ぶ授業を取り入れていただいた。当ホールの活動が、地域の	Mac	ATING TEMPLETAKAC
クリニック参加指導者の反応		・22団体 ・参加者等アンケートの満足度100%	方々から理解され支持されるためにも、今後も緊密に連携を図りたい。 〈連携団体〉TOTO株式会社、北九州商工会議所、一般社団法人北九州市青年会議 所、北九州音楽協会、北九州吹奏楽連盟、公益財団法人北九州活性化協議会、北九州 市中学生音楽研究会、東京藝術大学、KEYAKI TERRACE YAHATA、北九州市立大学、 北九州市年長者研修大学校、北九州市立八幡図書館、響ホール室内合奏団、日本製鉄 紀尾井ホール、一般社団法人全国ピアノ指導者協会、北九州市、北九州市教育委員 会、一般財団法人福岡県退職教職員協会、一般財団法人福岡県教職員互助会、門司 税関、外務省、福岡県		
			・普-06「楽器別クリニック」については、受講者を一般にまで広げて開催したが、一流のアーティストから直に学べる貴重な経験となったといった声が多く、アンケートでは参加者の満足度は「100%」であった。北九州市には、音楽を専門的に学べる学校が少ないため、貴重な学びの場を提供することができた。		

(2)「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

「・響ホールは「産官学民連携エリアマネジメント団体 ケヤキテラスヤハタ」(構成団体:20団体 協賛・協力団体:30団体)の構成団体として、地域のにぎわいづくりに参画している。 令和6年度は、ケヤキテラス 文化イベントの「やはたアートフォレスト~パレットの樹~」にて市立八幡図書館との連携企画として、「朗読コンサート」を開催。多くの地域住民が来館され、好評を得た(定員200名に対し参加 者195名)。

- *・0 1 1/0 また、毎年開催され令和6年度に20周年を迎えたJR八幡駅前イルミネーションイベント「八幡駅前ウィンターフェスタ」にて、「マイスター・アールト×ライジングスター オーケストラ」の演奏家が、スペシャルゲストとして出演。 弦楽・木管・金管の3つのセクションに分かれてアンサンブルを披露し、イベントに華を添えた。

・令和6年度からシニア世代が学ぶ場である北九州市立年長者研修大学校穴生学舎と連携し、音楽コース受講者約25名を受け入れ、響ホール施設見学や公演、職員の仕事などについて紹介する企画を開始した。 受講者は、クラシック音楽に興味のある方が少なく、「響ホールを知らなかった」「今回が初めての来場」という方が大半であったが、響ホールに実際に来てみて、職員の話しを聞いたことで、親近感を持っていただくことがで

受講者代表からは、「このような立派なホールが、北九州市にあることを知らなかった。文化の砂漠と言われていた北九州市だが、そんなことはなく、誇らしい、うれしい気持ちになった。」との言葉をいただいた。 令和7年度は、穴生学舎に加え、同校周望学舎音楽コースも、本プログラムに参加することが決定している。

令和7年度にインクルーシヴ公演を実施することを目標に、県内で開催される各種研修や講座へ、複数のスタッフが参加した。

響ホールでも、以前よりサポートが必要な方への接遇研修を行っていたが、企画する側の目線での講座受講は初の取組みであった。

講座参加で得た知識や経験を生かして、令和7年度のインクルーシヴ企画について検討を進めるとともに、これまで実施していた「サポートが必要な方への接遇研修」の内容も見直しを行った。

具体的には、研修の場面設定を「響ホールのコンサートに来場したサポートが必要な方への対応」と想定し、当施設や障害等(または必要なサポート)の状況に応じて深く学べる内容とした。 また、学びの内容をすぐに実践できるよう、サポートが必要な当事者の方たちにも講師としてお越しいただき、講座参加者が実際にサポート方法を体験する時間を多く持てるような工夫を行った。

公募により参加者を募集した結果、近隣の文化施設・団体、個人で音楽活動を行っている方などが参加した。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点

- ・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。
- |・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。
- ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。
- ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・公-2、公-3の未就学児と家族を対象としたコンサートの満足度	-満足度80%以上	·満足度平均97% (満足度平均 公-2 100%、公-3 93%)	・公-02「響ホール創造事業 0才からの音楽会」、公-03「響ホール創造事業 0才からの親子で楽しむクラシックコンサート」については、参加者アンケートで満足度97%と高評価を得、低年齢層・家族向け公演として、目標を達成することができた。		/
・若年層向けチケット(25歳以下チケット等)の販売 数	・前年度実績±5%(令和5年度実績2,214枚)	・前年度実績+3%(令和6年度実績2,276枚)	「子供向けの音楽と大人も楽しめるクラシック音楽の両方が聴けてよかった。」「楽器や曲の説明があり、モニターもあったので、子供も分かりやすく楽しめた。」といった意見が多かったが、「選曲や説明が未就学児には難しかった。」「子供向けの曲を増やしてほし		
・公演事業の学生招待の平均申し込み数	・前年度実績±5%(令和5年度実績202人)	・前年度実績+7%(令和6年度実績217人)	い。」「説明が長く子供が飽きていた。」等の意見も一部あった。内容について、未就学児 も飽きさせない工夫が必要だと感じた。		
・児童養護施設や特別支援学校などを対象とした 福祉的なアウトリーチの実施数	・8回(令和5年度実績8回)	・3回(令和5年度実績8回)	・若年層向けチケット(25歳以下チケット等)及び公演事業の学生招待については、前年度と比較し、同程度の普及の取組みが実現できた。感受性豊かな若い世代に、一流の音楽に触れる貴重な機会を提供する取組みとして、今後も維持に努める。		
			・アウトリーチについては、「校外での活動が難しい生徒・児童も参加することができる。」 「慣れた場所での鑑賞で、生徒たちも落ち着いて聴くことができる。」「演奏者の方が分かりやすく説明をしてくれて、生徒たちも静かに聴いていた。」など大変好評をいただいており、貴重な体験の場を提供することができている。実施にあたっては、相手方との密な調整が必要だが、今後も継続して実施していきたい。		

(2)「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・アーツスタッフ養成講座「ホスピタリティ・カスタマーサポート研修」には30~60代の幅広い年代の方々に参加いただき、実際に障がいのある講師陣から体験形式の研修を開催した。 参加者は仕事上必要な施設等の職員ばかりでなく、専業主婦、会社員等、様々な職種の方々がそれぞれの立場で参加された。 研修後は「職場でフィードバック」「社会貢献に役立てたい」「次回は子供と一緒に参加したい」など、受講者から好評を得た。

・学生招待で来場した学生からは、「響ホールの音響設備がすごかった。」、「プロの方々の演奏を聴いて、自分の目標となる音を見つけることができました。」「とてもすばらしかった。いつまでも聴いていたいくらい素敵な音でした。私も楽器演奏 |をがんばります。」等の声をいただいた。

本事業を通して、若い世代の感性を育み、演奏家をはじめ音楽文化を担う人材の育成に資することができた。

・公-06「2024北九州国際音楽祭 創造公演事業『日本の伝統芸能』」では、企画の段階で、国籍、世代、ジャンルの趣向を超えた多様な来場者を想定し、公演内容、広報宣伝の取り組み、当日の会場の設えなどを工夫をした。

例えば、伝統芸能は若者層よりもシニア層に訴求するイメージであるところからスタートし、 「若者層に知ってもらう、来てもらうにはどうすればよいか」「響ホールのお客様は、日本の伝統芸能への馴染みが薄い。そういう方に、どのようにアピールすれば届くのか。」「どんな内容を目指すべきなのか。」などの課題を抽出、 職員で検討を重ね、本公演の理解を深める事前講座をシリーズで開催する、地元高校の書道部学生に書を書いてもらい展示するなどの案が生まれ、実施した。

多様な人をどうすれば呼び込めるのか、興味を持ってもらえるのか、企画内容の段階から考える機会となった。

・公演当日にロビー等に掲示する案内板について、誰でもわかりやすいものになるようスタッフ内で検討し、必要に応じて変更した。

・2024北九州国際音楽祭事業では、より多くの若い世代の方々にクラシック音楽を聴いていただきたいという想いから、北九州市内在住の小・中・高校生とその保護者を招待する「hibiki未来シート」の取組みを実施した。

「hibiki未来シート」招待者のアンケートから、「大人同士で来ることはあっても、子どもと一緒にクラシック音楽を聴きにきたのは初めてなので、未来シートは、本当にありがたいです。子どもの成長の糧になります。」(40代・女性)との声をいただしいた。

評価項目⑤:自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

(1) 令和6年度の自己評価

評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

	現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より		<u> </u>				
(ア) (多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	・北九州国際音楽祭事業へ地元企業の特別協力を長年に亘り確保・外部資金獲得に向け組織体制を強化	・視野を拡げ、他事業についても各種助成制度 へ応募、活用を検討 ・令和7年度から文化事業の協働による地元金融機関等との連携を予定	・北九州国際音楽祭事業において地元企業の特別協力を令和6年度も継続獲得。 ・文化事業の協働について、地元金融機関と協議を複数回にわたり実施。	北九州国際音楽祭事業においては、地元企業の特別協力を令和6年度も継続して獲得したほか、他団体から助成を受けるなど、多様な財源の確保に取り組んだ。		
(イ) (広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	・有料会員の継続率73.7%	・有料会員の継続率を維持 ・若年層の固定客としての取込みを検討	・令和7年度有料会員のうち、前年度からの継続率は64.2% ・令和6年度会員の40歳未満の若年層は全体の24.9%(令和5年度比+1.6%)	ニーズや傾向を把握する機会ととらえ、事業		
(ウ) (他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	当財団が管理運営する施設間の人事交流、 広報及び技術部門の連携、会員制度や券 売システムの統合運用による効率化を実施		当財団が管理運営する施設間の有機的な取組を継続したほか、九州、福岡県下の公立文化施設による「九州類似ホール連絡会」、「福岡県文化芸術イノベーション・アカデミー」へ参加。	交流に積極的に加わり、職員の資質・能力		
(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通 (エ)を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	遺を受け、密な意思疎通により施設運営・事	現状の取組を継続、人脈を生かし文化部以外の部局とのネットワーク構築を図る	、財団管理職、係長級に北九州市職員の派遣を 受け、密な意思疎通と、文化部以外の部局との ネットワーク構築を実施。	文化部以外の部局への働きかけにより、企画の充実と拡がりとともに、実行性ある運営が可能となった。		
「持続可能性に関するチェックシート」より						
(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	配置している	現状を維持	配置した	今後も継続する		
(カ) (長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営 実務者が配置されている。	配置している	現状を維持	配置した	今後も継続する		
(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性(キ)を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	実施している	現状を維持	実施した	今後も継続して実施する		
(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その (ク) 他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性 を基に整理され、役割分担されている。	カ 実施している	現状を維持	実施した	今後も継続して実施する		
(サ) (世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	実施している	現状を維持	実施した	今後も継続して実施する		
(コ) (ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	令和6年度女性管理職 財団全体で40.0% (北九州市立響ホールのみ33.3%)	現状を維持	令和6年度女性管理職 財団全体で40.0% (北九州市立響ホールのみ33.3%)	管理職候補の育成に取り組んでいる		
(サ) (ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	実施している	現状を維持	実施した	制度を整備するとともに、随時所属長面接 等を実施し、職員の就労状況の把握に努め ている		
(シ) (コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンフライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	実施している	現状を維持	実施した	今後も継続して実施する		
(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー (ス) ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針 等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	ま施している	現状を維持	実施した	今後も継続して実施する		
(セ) (適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	実施している	現状を維持	実施し <i>た</i>	今後も継続して実施する		

4. 総評

団体の自己評価

【ミッション及びビジョンを踏まえた振り返り】

令和6年度は響ホールのミッションやビジョンを踏まえた事業計画に則り、当初の予定通りに実施できた。特に令和6年度は、「拠点」の役割を果たすため、響 ホール外での活動について、公演事業・人材養成事業・普及啓発事業の全体を通して積極的に取り組んだ。鑑賞経験が浅い来場者を想定し、いかに親しみを 感じていただくか、魅力を分かりやすく伝えられるかを念頭に企画したことで、アンケートによる公演の満足度は98~100%の非常に高い水準となり、掲げた目 標を達成することができた。また、音楽専用ホールではないながらも会場の特性を活かしつつ上質なコンサートを制作する事業は、響ホール職員のスキル向上 につながるものとなった。券売目標にわずかながら達することができなかった邦楽公演や、若年層への広報展開の難しさについては、課題を洗い出し、今後の 改善に向けた検討を進めたい。邦楽公演における地元高等学校との連携した取組みでは、地域の若い世代との交流が図られた側面もある。未就学児から入 場できるコンサートや体験プログラムなどの普及事業と併せて、着実に歩みを進めたい。

【創造性・企画性について】

令和6年度のラインナップで、特に創造性・企画性に重点を置いて取り組んだ公演は、公-6及び7である。

公-6「2024北九州国際音楽祭 創造公演事業『日本の伝統芸能』では、日頃、能や日本舞踊の生の舞台を観る機会が少ない観客に、能や長唄が本来持つ魅 力を、どのように届けるとよいのか、敷居が高いイメージを持たれがちな分野に、足を向けていただくにはどうすればよいかを念頭に置いて企画した。来場者ア ンケートには、次のような声が寄せられ、一定の成果があったと感じている。
・あまり邦楽に触れる機会がないため、1部のセミナーから、2部の実演につながる構成がよかった。(20代男性)

第1部で実演付レクチャーがあり、難しいと感じていた能や日本舞踊の理解を深めることができた。(60代女性)

全く予備知識のない方々が多く見受けられたが、興味が湧くように工夫されていた。体験など、通常考えられない企画があった。(50代女性)

解説も色々細かくあり、舞台も見どころのある部分を凝縮した感じで、普段見慣れない人や子どもでも飽きずに見られるものだったと思う。(40代女性)

詳しく知らなくても楽しむことができた。(30代女性)

能と日本舞踊の共通点と違いについて詳しく説明してもらえとても面白かった。(20代女性)

公-7「2024北九州国際音楽祭 創造公演事業『オリジナル室内オーケストラの編成』」は、若手育成の要素を含む長期計画をもって開始された、北九州市出身 の演奏家を核に、響ホールスタッフと共同制作する創造性の高い事業で、令和6年度で11回目を迎えた。北九州国際音楽祭のオリジナルオーケストラ「マイス ター・アールト×ライジングスターオーケストラ」は、北九州市出身のNHK交響楽団特別コンサートマスター篠崎史紀が率いる、国内主要オーケストラ首席奏者 らによる「マイスター組」と新進気鋭の若手演奏家による「ライジング組」により構成されている。無名の若手演奏家が出演するコンサートが公演として成立する のは、全体の1/3を占めるベテラン勢の力は言うまでもなく、地域のオーディエンスの若い演奏者に対する温かい目線があるからこそだと感じている。こうした会 場の雰囲気は初めからあった訳でなく、年月をかけて醸成されている。本公演のアンケートでは、「若い演奏者」というワードが多くみられ、このオーケストラのコ ンセプトがよく理解され、受け入れられていることを実感できた。「若い人達っていいなぁって、心から嬉しくなります」「若い演奏者が多いのにみずみずしくかつ 艶やかなアンサンブルで感動しました。」「若い演奏者の方々の演奏が大変感動的でした」などの声があった。

また、「来年も楽しみにしています!」という声を多くいただいているのも本公演ならではの反応であり、オリジナルオーケストラへの愛着と今後への期待から、 公演が定着しているとの手応えを感じている。本公演で醸成された、オーディエンスが若者を応援する機運が高まり、地元演奏者の育成など地域へ波及するこ とを期待させる。

【国際性について】

北九州国際音楽祭では海外から世界一流の演奏家を招聘することが多いが、近年は、国際感覚を身に着け、国際的に評価の高い日本国籍の演奏者も多数 活躍している。だからこそ、海外から招聘する意義、ジャンルや演奏者を吟味する必要性がある。観客アンケートからその効果が強く見られたのは、「ブラック ダイク・バンド」や「エフゲニー・キーシン」だ。

「ブラック・ダイク・バンド」のアンケートでは、「英国式のブラスバンドを初めてちゃんと聴いた。予想をはるかに上まわる豊かさでびっくりした。涙が出た。」「ブ ラスパンドは初めて聴いた。初めは興味がなかったが、調べると世界的に有名なバンドだと分かって楽しみにしてきた。さすがブラスの国のトップ、しびれる程の 上手さ!驚愕のサウンドに大満足。」など、本場のサウンドに驚いたという声が多数聞かれた。

「エフゲニー・キーシン」のアンケートでは、「一生に一度は生で聴いてみたいと思っていた。夢のよう。」「世界最高のピアニストの演奏を、地方の北九州市で 聴けたことがとてもうれしい」「キーシンさんの故郷ロシアは戦争中です。(省略)ピアノを通じて、他国のことを知る機会にもなりました。音楽は世界をつなぐ大切 な言葉だと感じました。」などの声をいただいた。「北九州国際音楽祭の今年のキャッチフレーズ(美を継ぐ心を継ぐ)に見事にマッチした演奏であることに間違 いない素晴らしいコンサートでした」との感想もいただき、演奏を通じて、世界を感じる機会にできた。

【地域文化拠点機能について】

令和6年度は、西日本工業倶楽部、北九州ソレイユホール、スペースLABO(北九州市立科学館)といった北九州市内公共施設での公演の実施、そのほか普 及事業として、西日本工業大学小倉キャンパス、木屋瀬宿記念館、北九州市立八幡東区生涯学習センター尾倉分館能楽舞台など、広域で事業を展開した。生 活圏内で良質な音楽を聴いたり、学んだりできる機会を創出し、「音楽の拠点」としての響ホールのアピールにつながった。

響ホールが立地する八幡東区域では、響ホールでの上質なコンサートの開催や積極的な地域交流の取組みにより、音楽文化の振興や聴衆の育成が図られ ているが、市の中心部に位置していないことから、波及効果を高めるためには多くの工夫が必要だと感じている。普及啓発、人材育成などの事業では、令和6年度同様に意識的に広域での会場設定を行い、取組みを北九州市域へ拡げることで、「拠点」の役割を果たしたいと考えている。

【多様性とアクセシビリティについて】

·hibikiこども未来シート(学生招待)

北九州国際音楽祭事業で実施している小学生から高校生を対象とした公演招待の取組みで、令和6年度には9公演・各定員30名で実施した。このうち5公演で 満席の申し込みがあった。先着順受付のため、定員を大幅に超える受付は行っていないが、いずれの公演も、受付から1ヶ月以内に定員に達し好評であった。 hibikiこども未来シートは、昨年度までは対象を「学生のみ」としていたが、令和6年度は安全面の配慮から「小学生は保護者と一緒に鑑賞する」よう条件の見直 しを行ったところ、このシステムを利用し鑑賞した親子が、コンサートの感想や会場でのマナーについて会話を交わす様子が頻繁に見られた。親子のコミュニ ケーションの深まりと「コンサートへ行く」ことの日常化の一助として、子どもだけでの体験よりも効果の高いものになったと受け止めている。一方で、先着順の受 付であることから利用者が一部固定化しつつある。受付方法を工夫し、多くの方に機会を持っていただけるよう検討する。 25歳以下チケット(若年層向けチケット)

140mのトップ・スートでは、アップ・スートでは、アップ・スートではあるが、券売は演奏者のファン層によるところが大きく、広報宣伝や普及事業などの成果であるかを判断するには、様々な角度からの分析が必要である。また、若年層と中高年及び高齢者層では、訴求する方法が異なる点が多く、広報宣伝 に必要な手法や費用、対応する職員のスキルアップが課題である。試行錯誤を重ね、引き続き若年層の取組みに尽力したい。

